



NPO法人化**20**周年記念誌

創設33年の歩みと健全な水循環への志向



2020年7月

特定非営利活動法人

日本下水文化研究会

写真で見る下水文化研究会33年



▲バルトンの墓前にて

▶1999バルトン忌

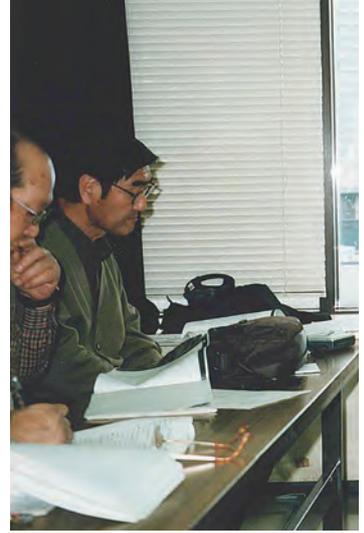


◀下水文化を見る会で案内役の渡辺健氏
(1992年9月、東京・青山墓地)





◀ 下水文化を見る会
(1992年9月、東京・神田下水)



◀ 神田下水のマンホール



▲ 第7回下水文化研究発表会
(2003年11月)



▲ バルトン没後100年記念シンポジウムで講演する稲永氏
(1999年8月)



◀ バルトンが少年時代を過ごした家の前に建立された記念碑



▲し尿研究会で講演する栗田彰氏
(右から2人目)



▲2010年度水制度改革国民会議年次総会 (2010年4月)



▲中川秀直衆院議員 (左から2人目) に水循環基本法で要望
(2012年10月)



◀中川神社再建の神事 (2003年11月)



▲水制度改革を求める国民大会 (2011年1月)

▶第10回水循環基本法研究会
(2009年10月)





▲都市貧困層コミュニティで更新された
共同トイレの前で子供たちと現地スタッフ



◀エコサントイレの前で
喜びの現地の人々



▶関西支部の寝屋川親水路見学会
(2010年6月)



◀大阪市で開催された下水道展で、
関西支部が幹事役になって行った
NPOの水環境シンポジウム
(2014年8月)

日本下水文化研究会

NPO法人化20周年記念誌

発刊の辞

日本下水文化研究会が活動をスタートさせたのは今を34年遡る1986年のことである。1992年から全国組織となり、その7年後の1999年、特定非営利活動法人として法人格を取得し、今日に至る。本記念誌はスタートから今日に至るまでの日本下水文化研究会の活動の足跡を振り返り、次の時代に伝えるべきことを明らかにすることを目的に編纂されたものである。

記念誌出版の企画は、1986年から30周年を迎えた2016年にもちあがり、「記念誌編集委員会（委員長：稲場紀久雄評議員）」を組織することが総会で承認された。委員会では、記念誌の発刊は本会にとって極めて重要なので、拙速で進めるべきでないという見解に立ち、1999年の法人化から20周年を本史、法人化以前の13年を前史として扱うことにし、編集製作に3年の期間を当てることになった。こうして、2017年に編集方針、執筆分担等が決まり、2018年度に最終的な記念誌の構成が定まった。かくして、関係者の努力によって、ここに記念誌発刊が実現した。

1986年以降の活動すべてが掲載されていること、ならびに本会の活動が目指してきた目標を明示し、副題は「設立33年の歩みと健全な水循環への志向」とした。1998年には、広く会員の本会への思い、下水文化への思いを集めるべく、会員寄稿を募った。

本記念誌は、3部構成となっている。第1部では通史として、法人格取得前を「前史」、取得後を「本史」とし、33年間の経緯を総括的にまとめている。

第2部では、分科会活動、支部活動、ならびに本会が継続してきた多岐にわたる10の活動が各論として述べられている。

第3部は、会員からの寄稿を含め次の時代への思いが語られている。

現在では、正会員数約100名の組織であるが、8名の有志でスタートし、一度は入会したという会員は現会員を含め500名に達する。会員各位には、本会が目指してきたことやこれまでの多様な活動を今一度確認していただければと思う。

34年という時間の経過のなかで、組織の新陳代謝がうまくいったとは言えず、会員の高齢化は進んでいる。しかし、法人化20周年は、これからも継続していく道りにおけるひとつの節目ととらえたい。なぜなら、命と健康に欠かせない水資源、公衆衛生、水資源を支える水循環、多様な生物をはぐくむ水環境に関わる課題は、決して解決の方向に向かっているとは言えないからである。

日本下水文化研究会は、これらの課題に志をもって取り組んできたと自負している。読者各位が、我々の志を感じ取り、問題意識を再認識していただく一助になれば幸いである。

2020年7月10日

執筆者を代表して・前代表 酒井 彰

NPO 法人 日本下水文化研究会 20 周年記念誌

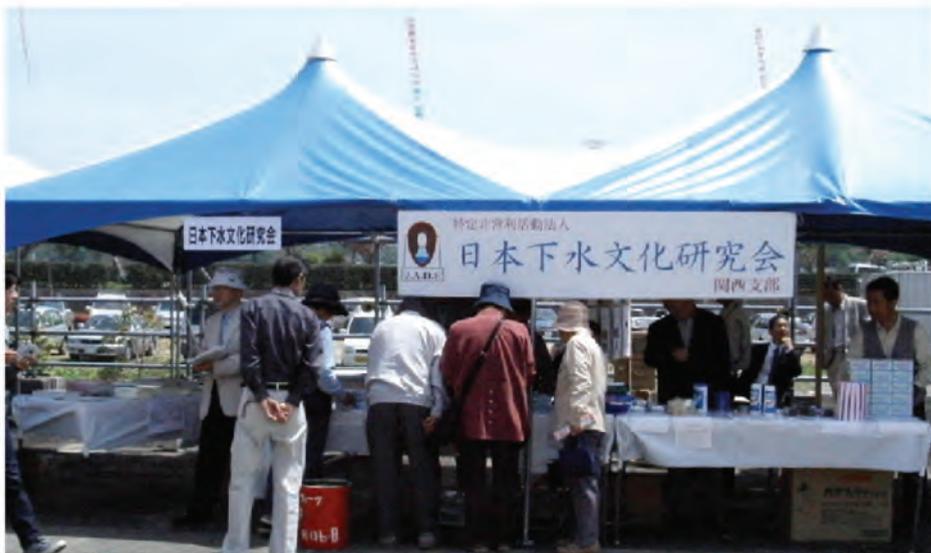
(グラビア) 写真で見る下水文化研究会 33 年	1
発刊の辞	5
第 1 部 通 史	
前史 (創設から NPO 法人化まで)	
第 1 章 下水文化研究会時代	11
第 2 章 日本下水文化研究会時代	16
本史 (法人化とその後の歩み)	
第 1 章 法人格の取得	21
第 2 章 従来からの活動の継続	21
第 3 章 海外技術協力活動	26
第 4 章 20 年間を通しての活動の趨勢と会員動向	31
第 5 章 研究会活性化への模索	34
第 6 章 新たなスタート	37
第 2 部 日本下水文化研究会活動各論	
尿尿・下水文化研究会の活動の歩み	43
日本下水文化研究会による海外技術協力事業 ―衛生的な生活環境をすべての人に―	52
関西支部の記録	83
W.K. バルトン記念事業	103
多摩川上下流交流活動～中川金治翁を中心に～	114
下水文化学校・下水道博物館活動の足跡	125
下水文化研究発表会	138
「見える下水道」への取組みと「下水文化を見る会」の開催	143
「水循環基本法」に関わる運動を支えた下水文化研究会	150
バルトン賞と久保起記念賞について	162
第 3 部 未来へ	
未来へー文化研は前進するー	171
会員寄稿ー下水文化への思いー：稲場、地田、関野、栗田、三品	174
出版活動 (「下水文化研究」総目次・刊行図書)	177



Bangladesh農村に作られたエコサントイレ群



バルトン記念碑の前で（左から製作者グラシエラさん、
 稲場代表、エジンバラ市長）



やえざくら祭り（兵庫県下水道フェスティバル）関西支部ブース



バルトン記念事業でバグパイプと共演する
 ケビン・メッツ氏



飲み水の水源とするため池の掘削



洪水期も使えるエコサン・トイレ